

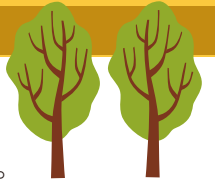
スロ～なニュースレター



協会活動 ● いろいろ報告

天習地学【環境「緑育」活動】 平成25年9月21日～23日 第五回 くるくる環境フェスタ

第五回 くるくる環境フェスタ(開催 9/21～23)は お天気にも恵まれ、たくさんの参加者でにぎわいました。 私たちも主催者の一つとして様々な企画に参加しました。



『竹灯夜INこもれびの森コンサート』

今年で7年目を迎えるキャンドルナイトの取り組み。竹灯籠を作って、ベルファームの「こもれびの森」に並べ、秋の夜長を幻想的な竹灯籠の灯りでコンサートを楽しむ企画です。



今回竹灯籠を作ろうとしたきっかけは、全国的に放置された竹林が問題となっており、ベルファームにも竹林があることから、その管理の方法や保全の必要性、資源としての活用方法などを皆で学びたいと思いました。子供たちは安全のためヘルメットを被り、親子で共同して10m近くに成長した竹を伐採しました。

そしてキャンドルの原料には、これまでの廃油でなく、ミツバチのミツロウを使用しました。皆さんはミツバチが世界中で数が減少していることをご存知でしたか?環境破壊が進んでいることとの関係について、松阪で養蜂を営んで見える水谷さんから、わかりやすくお話をいただきました。

最後には皆で作った竹灯籠を並べて幻想的な灯りの元で、エンドレスさんのコンサートを楽しみました。

今回のキャンドルナイトで学習したことは、田畑を侵食する厄介者扱いの竹ですが、上手に活用すれば様々な資源になり、例えば海苔の生産用の支柱や、牡蠣のいかだの材料として、またチップにした竹をトマトの敷材として活用している事例が報告されました。



またミツバチは、私たちがいつも食べている果物や野菜の受粉に欠かせない役割があること、私たちに出来ることとして花をたくさん植えること、それも色々な種類を植えることが ミツバチにとっても大切であることを学びました。

この企画は、コープみえさん、NPO法人うにの郷クラブの皆さんとの共催で開催しました。参加者人数は88名でした。(岩森)

『NPO法人うにの郷クラブ』をご紹介します。



三重県明和町の大仏山を拠点に地域の里山の保存と里山体験などを通じて子どもたちに環境保全の活動をしている団体です。大仏山の里山の整備とともに子どもたちの遊ぶ遊具やログハウス、また、竹細工を加工する施設や焼き物を作る窯も持っています。この地域の竹林の伐採や伐採された竹を活用して竹細工や竹炭をはじめさまざまな竹製品も作っています。



9月24日のベルファームのくるくるフェスタでは、竹細工で作ったおもちゃで楽しい遊びを来園された子どもたちに教えてくれました。わなげ、的当て、鉄砲、竹馬、竹ぼっくりと子どもたちは大はしゃぎです。また、当日の夜開催されたキャンドルナイトで使う竹灯籠を作るために、竹林の伐採についても指導いただきました。

今回は、竹が森を侵食していく話を交えながら、約30名の市民の方が参加して竹の伐採作業を体験しました。特に密集してはえている竹を切り倒しました。切り出した竹を加工して灯籠づくりも指導いただきました。(浦北)



第1回『エコで人と人を繋ぐリユースの輪』～「くるくるフェスタ」で開催～

リサイクル「再生利用」より、更に一歩進んだリユース「再利用」は、家庭で不要になっただけで、まだ使える品物をそのまま人に譲り使ってもらうことで、新たな息吹が生まれます。こうして物を大切に使うことは、ごみの減量として環境に優しく、素敵な人と人とのエコな繋がりともなります。そのお手伝いを「リユース広場」として初めて、開催しました。事前に会員から寄せられた品を、まず会員が優先的に利用しその後は来園者に、少額の“エコ募金”をお願いするという形で提供しました。リユース品や農業塾で収穫された野菜や種は150点以上もあって、中には予約が出るほど人気を集め、午前中だけの短時間でしたが、多くのリユースの輪ができ好評のうちに終了することができました。集まったご厚意の“エコ募金”は、子供を中心としたエコ活動の資金として利用させていただき、更に第2回開催へと繋げていきたいと思ひます。皆様の御協力に、心から感謝いたします。(近田)





平成25年度総会を 開催しました

平成25年6月29日(土)

6月29日(土曜日)に松阪農業公園ベルファームレクチャールームにおいて第10回の通常総会が開催されました。紆余曲折の連続でしたが設立から10年を迎えることが出来ましたのは会員様全員のご協力の賜物と感謝しております。



当日は正会員(33名)の中で12人(委任状19名)の出席、協力会員10名の傍聴者とちょっとさびしい総会となりましたが、平成24年度の事業報告並びに決算報告及び平成25年度の事業計画並びに収支予算書について出席者全員の同意を得ました。平成25年度は食農や環境教育を中心に事業を進めますが、新たな会員確保についても、積極的な取り組みを進めてまいりたいと考えています。

総会終了後、寺添幸男さん(大台町産業課長、当協会理事)から、日本中の過疎地がかかえる課題である限界集落対策(地域の存続が難しい地域)について大台町大杉谷地区(5集落で270人その内65歳以上の高齢者が7割)の集落対策について記念講演がありました。

話の中で、地元住民は大きな変化を求めていない。面倒なことに巻き込まれたくないという考え方が強い。しかし、行政は10年先20年先の地域の将来を考えて今出来る対策を粛々と行うことが大切である。大台町では交流活動から定住につながる取り組みと定住を可能にする環境を整える努力しているとのことでした。また、寺添さんから、今一生懸命努力している地域とそうでない地域では将来おのずと差が出るという話をうかがいました。

地産地食・平凡人生 報告スローな談話会

食の大切さを学び、
様々な角度から検証することを目的としています。

「継続は力なり」を信じて、
偶数月は松阪農業公園ベルファームで、
奇数月は津の豊里ネオポリスで
談話会を続けています。

話題提供者	テーマ
4/12(ベル)	田上 良実 原木椎茸へのこだわり
5/10(ネオ)	甲田 裕明 私のスローな生き方
6/21(ベル)	田上 良実 原木椎茸へのこだわりpart2
7/19(ネオ)	倉田 汎 紙芝居を通じ健康を考える
8/16(ベル)	高野 勝 農村ネット22への参加と米作り
9/20(ネオ)	右田 嘉次 炭焼きについてのお話

(ベルはベルファーム開催、ネオはネオポリス・津の開催)



談話会は、軽食を取りながら、様々な分野の話題提供者からお話していただき、短時間ではあるが充実したやり取りが出来ていると思います。

田上さんの、以前はできなかった周年栽培への取り組みと、無農薬で栽培できる原木椎茸へのこだわりは、安全・安心でしかも美味しいものを、時間と動力はかかるが供給し続けると言う強い意志を感じ、農家市場でその本物を販売できることを誇りに思います。

高野さんの農村ネット22参加報告では、福島での原発事故の影響と、安全・安心を確保するための努力。特に「安心」と「安全」は異なり、安心をしていただくためには多大な努力が必要であることを痛感しました。

右田さんは、地元南伊勢町で培った炭焼きの技術を鈴鹿に伝え、技術の伝承を図って活動の輪を広げられています。炭焼きは、炭の生産のみではなく、原料となる広葉樹を確保するため里山の手入れが必要となり、里山の再生につながるのではないかと考えます。

(沼田・大原)

地産地食【食文化を見直す活動】

「農業塾」 第I期 研修(終了)～第II期へ!

●報告

平成24年9月から始めた「農業塾(第I期)」が、平成25年8月3日(土)をもって1年間(12回)の講座を終えることができました。

最後の講座が終了した後、「農業塾(第I期)修了証書授与式」を行いました。修了した17名の受講者の皆様に対し、今後の農業を通じての活躍を期待して、大原理事長から修了証書の授与を行いました。

8月12日(土)には修了を記念して「研修(修了)旅行」を行いました。

研修テーマは「麦類の利用」で、(有)中林牧場(伊賀市)と伊賀白鳳高校(伊賀市)が研修場所でした。中林牧場では「飼料としての麦類の利用」が研修の内容でした。座談会形式で行い、当牧場の社長のほか、奥さん、息子さん、息子のお嫁さんも加わって、大変にぎやかで有意義な研修を行うことができ

ました。また、中林社長には昼食会にも参加していただき、座談会の延長としてさらに深い研修となりました。伊賀白鳳高校では、「ライ麦のパン作り」を行いました。当該高校の辻校長先生、フードシステム科の先生達(新崎先生、西嶋先生)から熱心極まりない指導を受けるとともに、楽しい試食会も行いました。

●第II期

平成25年9月から「農業塾(第II期)」が始まっています。9月7日(土)に開講式と第1回講座を行いました。受講者は25名で、第I期を修了された方(15名)、シルバー人材センター「就農者養成」技能講習を修了された方(5名)、新規に会員になられた方(5名)がそのメンバーです。

農業塾に関する詳しい活動内容は、「NPO法人三重スローライフ協会・農業塾」としてインターネットで公開していますので、パソコン等で検索してください。(藤田・森川)

●メッセージ

農業塾 研修の皆さんとの交流

(有)中林牧場 代表取締役 中林正悦

「麦」がテーマという農業塾の視察研修先に当牧場が選ばれました。「牛もムギを食っとるヤロー!」と、某(M)先生の恐喝まがいのご依頼を喜んで受けました。

8月17日(土)当日は、猛暑は過ぎたとはいえども、巷では熱中症のニュースが流れるほどの残暑厳しい折でした。朝早いうちに牛の管理を終えて、我が家で有りっ丈の椅子を寄せ集め、ご一同をお待ちいたしました。

1時間少々の短い研修でありましたが、「麦」に関する視察というよりも座談会雰囲気の中で、学校教育から家庭教育、食育から学校給食、TPPから地域の存亡論まで、多少言いつ放しでありましたが、久しぶりに暑さを忘れるほどの熱い思いのぶつかり合いに、まだまだ地域にものを申し続けるアナログ青年でありたいなアー、と実感した研修会になりました。

地産地食・農村産業

シルバー人材センター「就農者養成」技能講習

平成25年5月から8月にかけて、(社)三重県シルバー人材センター連合会の委託を受け、厚生労働省の委託事業である「平成25年度「就農者養成」技能講習」を行いました。講師は大原理事長、藤田理事、森川事務局長が担当し、受講者は55歳以上の就農意欲のある人たち22名(内女性7名)でした。

講習は5月12日に始まり、8月1日まで8回行い、1回あたり6時間の講座(講義と実習)となりました。講習期間中は雨が降ったり、暑くなったり、会場が急に変わったり、開催曜日がまちまちであったりと、受講者の方々にとってはあまりよい学習環境とはいえないながらも、受講者各自一生懸命努力していただいて無事講習会を終えることができました。この講習会の詳しい学習活動については、「NPO法人・三重スローライフ協会・農業塾」のブログからのリンクで公開しています。(藤田・森川)

NPO(特定非営利活動)法人

三重スローライフ協会
MIE SLOW LIFE SOCIETY

〒515-0845 三重県松阪市伊勢寺町551番地3

TEL 0598-63-0460 FAX 0598-63-0446

<http://www.okaeri.info/>